

# 耐震診断 現地調査票

現地調査日 2020年 8 月 3 日

## ■お客様情報

氏名	ふりがな <b>さんぷる</b>
	<b>サンプル</b> 様
住所	〒 <b>332-0002</b>
	<b>埼玉</b> 都道府県
	<b>川口市 弥平2-20-3</b>
電話	(自宅) <b>048-224-8160</b> (携帯)

会社名	<b>耐震工務店</b>
電話番号	
(会社)	
(携帯)	
調査担当者	

## ■基本調査 (該当する項目に☑ チェックをして下さい)

上部構造の診断		地盤・基礎の診断	
竣工年	S・H <b>54</b> 年 <b>2</b> 月 (築後 <b>41</b> 年)	地盤	施されている対策の程度
モジュール	<b>910</b> mm	<input checked="" type="checkbox"/> よい・普通	
外壁材	<input type="checkbox"/> 木ずり下地モルタル <input type="checkbox"/> 土塗(記号:T ) <input type="checkbox"/> 窯業系サイディング <input type="checkbox"/> 構造用合板 <input checked="" type="checkbox"/> 金属サイディング <input type="checkbox"/> 羽目板貼り <input type="checkbox"/> トタン <input type="checkbox"/> 他( )	非常に悪い (埋立地、盛土、軟弱地盤)	<input type="checkbox"/> 表層の地盤改良を行っている <input type="checkbox"/> 杭基礎である <input type="checkbox"/> 特別な対策を行っていない
			地形
筋かい	<input type="checkbox"/> 有 端部接合金物 あり <input checked="" type="checkbox"/> 有 端部接合金物 なし <input type="checkbox"/> 無	<input checked="" type="checkbox"/> 平坦・普通	
屋根材	<input type="checkbox"/> 軽い(石綿スレート・鉄板葺等) <input checked="" type="checkbox"/> 重い(椽瓦葺)	がけ地・急斜面	<input type="checkbox"/> コンクリート擁壁 <input type="checkbox"/> 石積 <input type="checkbox"/> 特別な対策を行っていない
		基礎形式	状態
床仕様	<input type="checkbox"/> I 合板 <input type="checkbox"/> II 火打ち+荒板 <input checked="" type="checkbox"/> III 火打ちなし	鉄筋コンクリート基礎	<input type="checkbox"/> 健全 <input type="checkbox"/> ひび割れが生じている
		無筋コンクリート基礎	<input type="checkbox"/> 健全 <input checked="" type="checkbox"/> 軽微なひび割れが生じている <input type="checkbox"/> ひび割れが生じている
柱頭・柱脚接合部	<input type="checkbox"/> I (平12年建告1460号又は構造計算に適する金物) <input type="checkbox"/> II (山形プレートVP、かど金物CP-T、CP-L、込み栓) <input checked="" type="checkbox"/> III、IV(ほぞ差し、釘打ち、かすがい等) 構面の両端が通し柱の場合はIIIとしますので、通し柱を必ずご記入下さい。	玉石基礎	<input type="checkbox"/> 足固めあり <input type="checkbox"/> 足固めなし
		その他の基礎 (ブロック基礎など)	

※地盤・基礎は、上部構造の評価に直接は含まれないが、地震時に注意すべき点を注意事項として指摘する。

## ■その他の項目

地震地域係数 Z	<input type="checkbox"/> 0.7 / <input type="checkbox"/> 0.8 / <input type="checkbox"/> 0.9 / <input checked="" type="checkbox"/> 1.0
多雪区域	<input type="checkbox"/> 該当する→_____m / <input checked="" type="checkbox"/> 該当しない
計上割増係数	1階短辺長さ <input type="checkbox"/> 4m未満 / <input checked="" type="checkbox"/> 4m以上6m未満 / <input type="checkbox"/> 6m以上 2階短辺長さ <input checked="" type="checkbox"/> 4m未満 / <input type="checkbox"/> 4m以上6m未満 / <input type="checkbox"/> 6m以上
階高	1階 <u>2.7</u> m / 2階 <u>2.7</u> m
柱径	<input checked="" type="checkbox"/> 105角以上 / <input type="checkbox"/> 90各以上~105角未満

## ■老朽度の調査 (該当する項目の数字に○を付けて下さい。)

部位	材料、部材等	劣化事象	存在点数		劣化点数
			10歳未満	10歳以上	
屋根葺き材	金属板	変退色、さび、さび穴、ずれ、めくれ	2	②	2
	瓦・スレート	割れ、欠け、ずれ、欠落			
樋	軒・呼び樋	変退色、さび、割れ、ずれ、欠落	2	②	2
	縦樋	変退色、さび、割れ、ずれ、欠落	2	②	2
外壁仕上げ	木製板、合板	水浸み痕、こけ、割れ、抜け節、ずれ、腐朽	4	④	④
	窯業系サイディング	こけ、割れ、ずれ、欠落、シール切れ			
	金属サイディング	変退色、さび、さび穴、ずれ、めくれ、目地空き、シール切れ			
	モルタル	こけ、0.3mm以上の亀裂、剥落			
露出した躯体		水浸み痕、こけ、腐朽、蟻道、蟻害	2	2	2
バルコニー	木製板、合板	水浸み痕、こけ、割れ、抜け節、ずれ、腐朽	1	①	1
	窯業系サイディング	こけ、割れ、ずれ、欠落、シール切れ			
	金属サイディング	変退色、さび、さび穴、ずれ、めくれ、目地空き、シール切れ			
	外部との接合部	外壁面との接合部に亀裂、隙間、緩み、シール切れ・剥離	①	①	1
	床排水	壁面を伝って流れている、または排水の仕組みが無い	①	①	1
内壁	一般 内壁、窓下	水浸み痕、はがれ、亀裂、カビ	2	②	2
	浴室	タイル壁	2	②	②
	タイル以外	水浸み痕、変色、亀裂、カビ、腐朽、蟻害			
床面	一般室	傾斜、過度の振動、床鳴り	2	②	2
	廊下	傾斜、過度の振動、床鳴り	①	①	1
床下		基礎の亀裂や床下部材に腐朽、蟻道、蟻害	2	②	②
合計				22	9
低減係数(1-劣化点数/存在点数)					

診断依頼者氏名

氏名 ふりがな  
**サンプル** 様

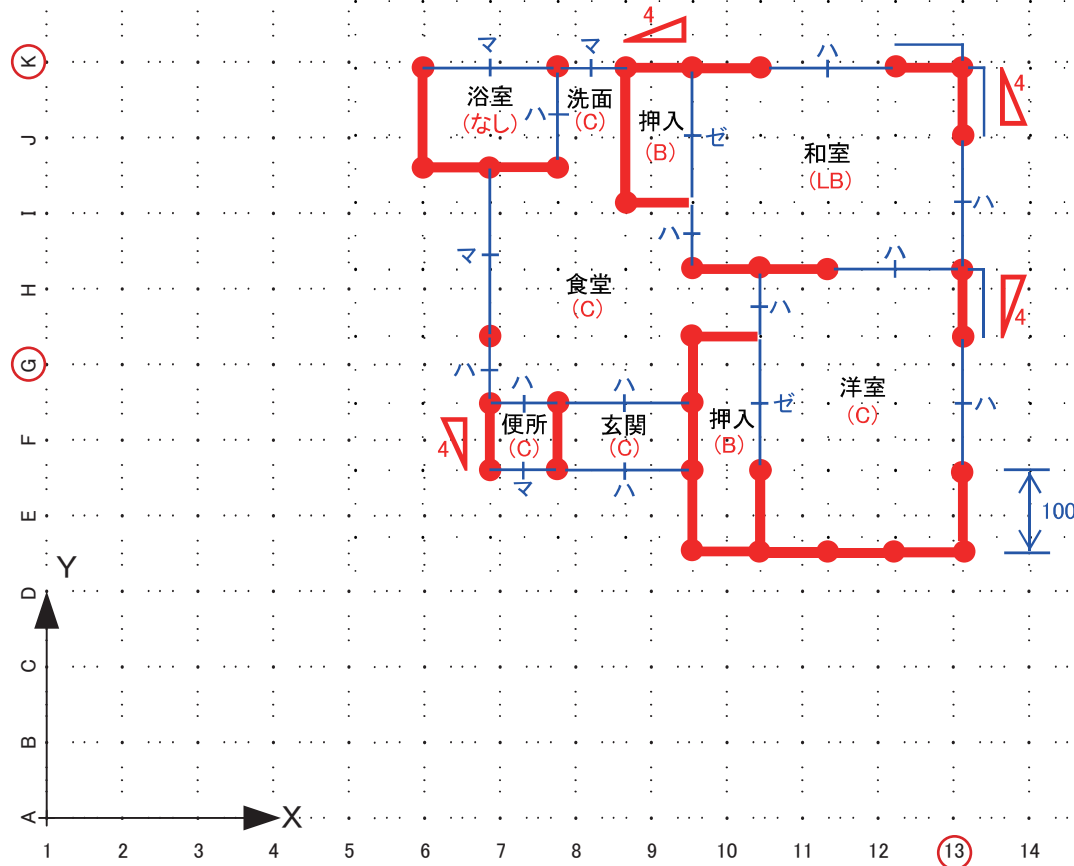
注意 ① : 平面図の中には必ず部屋名(玄関・ホール・廊下・洋室・和室・リビング・ダイニング・キッチン・浴室・押入 等)と材質記号をご記入下さい。  
 注意 ② : 記入に不備がある場合は、診断書を作成することが出来ませんのでご注意ください。

1階 平面図

■内壁材質記号一覧

材質	壁基準耐力	記号
木ずり下地モルタル	2.2	M
構造用合板(厚7.5mm以上)	5.2	G
石膏ボード(厚9mm以上)	1.1	C
ラスボード(厚7mm以上)	1.0	LB
ラスボード(厚7mm未満)	0	LB0
土塗り壁 厚40~50mm	2.4	T5
土塗り壁 厚50~70mm	2.8	T7
土塗り壁 厚70~90mm	3.5	T8
土塗り壁 厚90mm以上	3.9	T9
合板(厚:3mm以上)	0.9	P
合板(厚:3mm未満)	0	B
戸袋裏: 補強不可壁	—	X

※上記の表にない項目に関しては、空欄に【材質・壁基準耐力】を追加して下さい。また記号は崩さずはつきりにご記入下さい。記号がない場合には非耐力壁とみなします。



※ 通し柱が無い又は不明な場合は上下階が分かるよう、数字とローマ字に○を付けて下さい。

診断依頼者氏名

氏名  
ふりがな  
サンプル 様

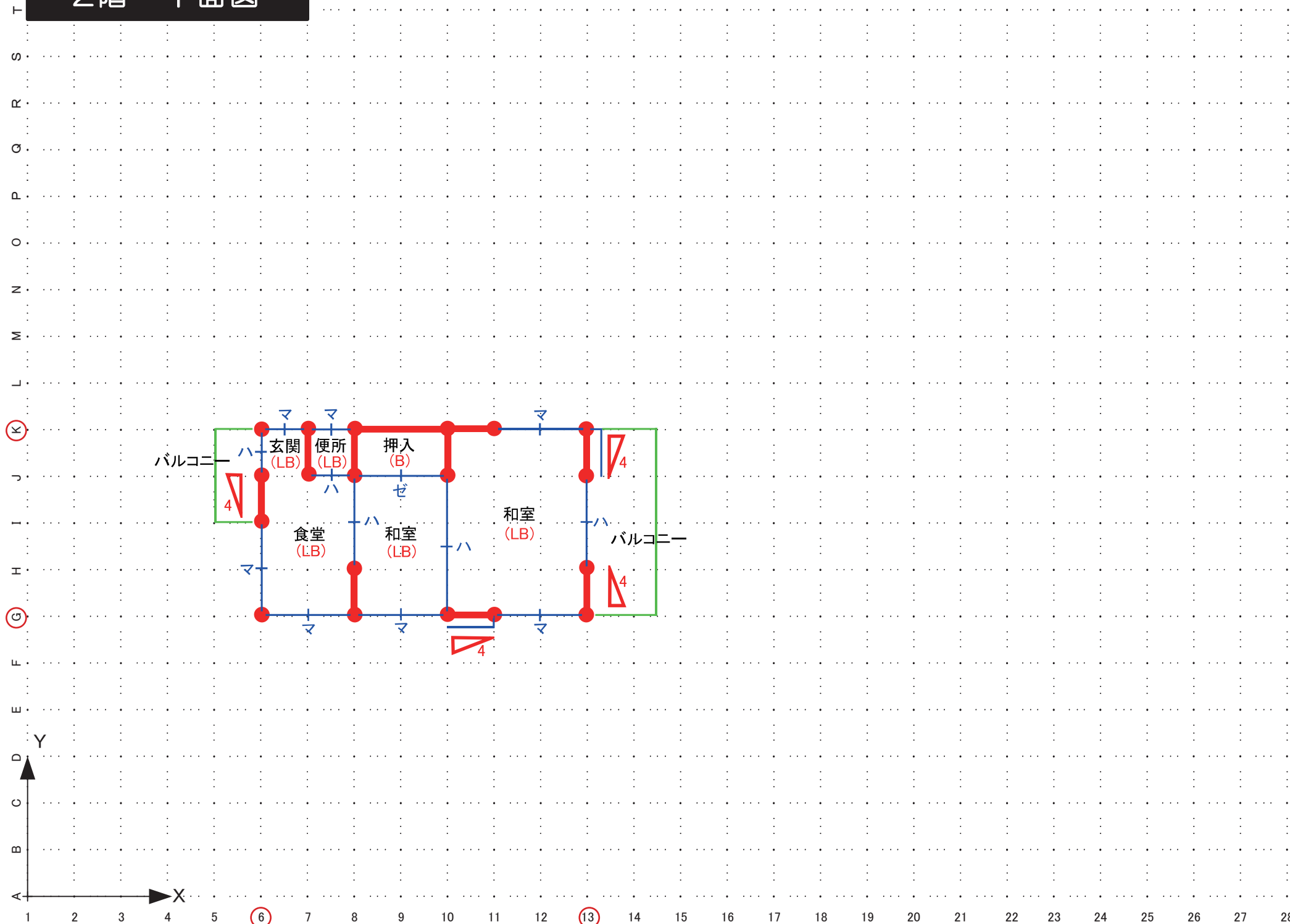
注意 ① : 平面図の中には必ず部屋名(玄関・ホール・廊下・洋室・和室・リビング・ダイニング・キッチン・浴室・押入 等)と材質記号をご記入下さい。  
 注意 ② : 記入に不備がある場合は、診断書を作成することが出来ませんのでご注意下さい。

2階 平面図

■内壁材質記号一覧

材質	壁基準耐力	記号
木ずり下地モルタル	2.2	M
構造用合板(厚7.5mm以上)	5.2	G
石膏ボード(厚9mm以上)	1.1	C
ラスボード(厚7mm以上)	1.0	LB
ラスボード(厚7mm未満)	0	LB0
土塗り壁 厚40~50mm	2.4	T5
土塗り壁 厚50~70mm	2.8	T7
土塗り壁 厚70~90mm	3.5	T8
土塗り壁 厚90mm以上	3.9	T9
合板(厚:3mm以上)	0.9	P
合板(厚:3mm未満)	0	B
戸袋裏:		
補強不可壁	—	X

※上記の表にない項目に関しては、空欄に【材質・壁基準耐力】を追加して下さい。また記号は崩さずはつきりとご記入下さい。記号がない場合には非耐力壁とみなします。



※ 通し柱が無い又は不明な場合は上下階が分かるよう、数字とローマ字に○を付けて下さい。

# 現地調査票 記入のポイント

## 必要事項の記入

- ・地域係数Zは、該当する係数に○印を付けて下さい。
- ・多雪区域に指定されている地域は積雪深をご記入下さい。当てはまらない場合は、該当無しに○印でチェック。
- ・形状割増係数は、木造部1階・2階の短辺長さの当てはまる寸法に○印を付けて下さい。
- ・土台を含む床下木材の含水率は、含水率計を使用し記入して下さい。
- ・基礎圧縮強度は、テストハンマーの示した数値を換算表にてコンクリート強度に変換して記入して下さい。
- ・当組合は、室内外・小屋裏・床下の調査を基本としております。

## ●「基本調査」

### 【上部構造の診断】

- ・【竣工年】：建築年度をご記入下さい。年号等と築年数に食い違いがある場合は年号等を優先します。
- ・【モジュール】：使用されている主な柱のスパン（柱間隔）をご記入下さい。
- ・【外壁材】：使用されている主な材料1つにチェックをして下さい。  
(外壁材が2種類以上存在する場合は、平面図にその範囲と材質を明記して下さい。)
- ・【筋かい】：『有』の場合にはその方向のほか、端部接合金物の有無にチェックを入れて下さい。
- ・【屋根材】：屋根の種類によって判断しチェックをして下さい。  
(2種類以上ある場合は原則として重量が重くなる側で判断して下さい。)

- 〈軽い建物〉：石綿スレート・鉄板葺き
- 〈重い建物〉：棧瓦葺き
- 〈非常に重い建物〉：土葺瓦屋根

但し、指針編P27にあるように、左記仕様と著しく異なる場合は実状に合わせて安全側に設定する等の構造的な判断が必要となる場合があります。

- ・【接合部】：築年数、図面、小屋裏・床下調査、旧金融公庫の利用等で総合的に判断して下さい  
 〈接合部Ⅰ〉：平成12年建告1460号に適合する仕様、N値計算による仕様、構造計算された仕様  
 〈接合部Ⅱ〉：山形プレートVP、かど金物CP-T・CP-L、込み栓仕様。  
 〈接合部Ⅲ〉：ほぞ差し、釘打ち、かすがい等（構面のうち通し柱に挟まれた部分）  
 〈接合部Ⅳ〉：ほぞ差し、釘打ち、かすがい等。
- ・【床仕様】：接合部に同じ。  
 〈床仕様Ⅰ〉：合板（想定床倍率1.0以上）  
 〈床仕様Ⅱ〉：火打ち+荒床（想定床倍率0.5以上1.0未満）  
 〈床仕様Ⅲ〉：火打ち無し（想定床倍率0.5未満）

### 【地盤・基礎の診断】

- ・【地盤】・【地形】付近の地盤調査図、地盤図、地名、現地調査、住民の見聞等で判断し、チェックして下さい。  
『施されている対策の程度』にも該当する場合にはチェックをして下さい。地盤が『非常に悪い』の場合は軟弱地盤割増係数1.5を乗じます。
- ・【基礎形式】目視や鉄筋探知機等を使用し、チェックをして下さい。状態もチェックして下さい。

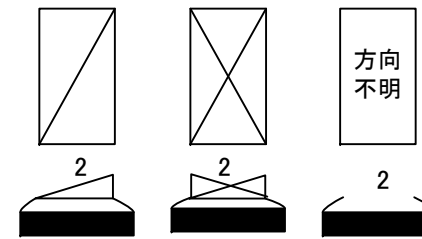
## ●「老朽度の調査」

- ①築10年以上の場合は『築10年以上』の欄に部位が存在する項目の数字に○を付けて下さい。（存在点数）  
築10年未満の場合は『築10年未満』の欄を使用して下さい。この際斜線の部分に劣化事象がある場合には、『築10年以上』の欄を使用して下さい。
- ②劣化事象が確認された場合には『劣化点数』の欄の数字に○を付けて下さい。
- ③劣化度による低減係数は、 $(1 - \text{劣化点数} / \text{存在点数})$  で算出します。（0.7未満の場合は0.7）

## 平面図の記入

- **柱位置**：柱へ●、通し柱に◎を付けて下さい。通し柱が無い又は不明の場合は、上下階がわかるよう図面の下の数字と左のローマ字へ1箇所○をして下さい。
- **開口マーク**：開口マークを記入して下さい。〔マ〕〔ハ〕〔ゼ〕。
- **耐力壁**：耐力壁は必ず太い線で記入して下さい。  
手すりや構造的に耐震要素でない壁の場合は細い線で記入して下さい。  
※無開口壁の長さが、筋かいは90cm未満、面材は60cm未満の場合、それらの壁を耐震要素とは評価しません。また、補強不可能の壁には〔×〕を記入して下さい。
- **筋かい**：筋かいの表記は下図のように筋かいが入っているサイズ・方向・範囲を明記して下さい。  
(同寸(90×90)→1・2つ割(45×90)→2・3つ割(30×90)→3・大貫(15×90)→4)
- **戸袋**：半壁・戸袋位置を記入して下さい。※半壁は耐力壁には含まれません。
- **部屋名称・材質記号**：平面図内に部屋名と材質記号を記入して下さい。  
部分的に材質が異なる場合は、材質と範囲を図面にしっかりとご記入下さい。  
各部屋の材質は平面図内の「材質記号一覧」より記号で記入して下さい。

### 重要① 筋かいの記入例(サイズ・向き・範囲)



### 重要② 開口部の記入についての注意

記入例) ●—マ—●

建物外周部の開口部には、  
 ・窓開口であれば「マ」  
 ・掃出開口であれば「ハ」  
 ・全開口であれば「ゼ」  
 と記入して下さい。

注)「窓開口」は開口寸法1200mm以下、  
 「掃出開口」は垂壁高さ360mm以上、  
 上記に該当しない場合「全開口」とします

